
光新たに雲染めて

——農業と観光のむら “つまごい”——

いも類振興情報
編集部

中之条駅を出た上野発の新特急草津号が急な勾配を上るにしたがい、両側からは挟むように山が迫り、窓からは山肌にぴったりと沿って生える樹々のひと枝・葉の一枚が手が届きそうにはっきり見えてきます。眼もくらみそうな^{あがつま}吾妻溪谷に肝を冷やししながら、トンネルをいくつも抜けているうちに川原湯駅を経て長野原草津口に停車しました。日本三大名湯の一つ、草津温泉にはここからバスの便がありますが、列車はこの先少しずつ展望の開けてゆく谷間を進み、10分ほどで万座・鹿沢口駅につきました。ここは高原野菜の生産と夏の避暑、冬のスキーで有名な^{つまごい}婦恋村の玄関口です。

1. 山あり溪谷あり、そしていで湯

その名もロマンたなつまごい村。面積336平方km、人口約1万人のこの村は群馬県の西端で三方を二千メートル級の山に囲まれた標高1,000～1,300mの台地であって、溪流は村をいくつにも区切り、吾妻川となって下り利根川に合流しています。柔かい曲線を描く山々は深い緑に覆われていますが、東南端に聳える浅間山（2,586m）は茶褐色の肌もあらわに噴煙を上げ、周囲の穏やかさとは対照的で静の世界に動のアクセントをつけています。噴煙は日によって真直ぐに高く昇り、または横になびき、あるいは山腹をかけ下ります。流れる雲に頂が隠れたかと思える間に夕日に映えて紫色に変わることもあり、その美しい容姿は眺めて飽くことを知りません。

名湯草津にその名を譲ってはいますが、つまごいもまた各所に温泉が湧き出しています。北の万座は標高1,800mにあり、日本でもっとも高地にある温泉の一つとして知られ、付

近には活火山白根、湯釜などがあって岩肌も荒々しく、景観はやや厳しい男性的な感じのするところで、白根観光、またゴルフに興ずる基地としても便利で冬季には雪が積り、さらさらとした雪質の良さでスキー客に好評です。

西南にある鹿沢・新鹿沢温泉はこれとは対照的になだらかな、緑濃い山裾にあり、万座が高温の硫黄泉であるのにくらべ、ここは肌へのあたりがやわらかな適温の含土類重曹泉です。溪流に沿って遊歩道もあり、夏は涼しい天然の林間にあるバンガローで満天の星を仰ぎ、あるいはキャンプファイヤーを囲み、楽しい夢を結ぶこともできます。鹿沢温泉郷の山々はハイキングコースとなっていて、春から秋にかけイワカガミ・レンゲツツジ・ヤナギラン・リンドウほか山野草が、あるいは美しく、あるいはひそやかに可憐に開き、山を愛する人々の心を和ませてくれますが、この地を訪れるハイカーたちは手の加わらない自然に魅せられ、ふたたび三たび、あるいは数十年にわたり訪れることが多いと聞きます。

山間の小さな湖バラギは夏の間釣り、ボート遊びに興ずる人たちで賑わい、また村内にはゴルフ場も数カ所あって都会の暑さを逃れた人たちが爽やかな高原の風に吹かれてプレーしています。冬はスキーばかりでなく雪の少ない浅間山近くのリンクでスケートもできますが、村出身のスケーターが国内ばかりでなく、国際試合でも広く活躍していることはよく知られています。

高原台地にある村は、冬は長く寒さが厳しく、春の訪れは遅く、短かい夏をはさんで秋はかけ足で通り過ぎてゆきますが、その間自然のうつりかわりはほんとうにすばらしいものがあります。

天皇陛下は皇太子であらせられたときに、あるいはお一人で、また妃殿下御同伴でいくたびもこの地をお訪ねになられて山野を跋涉され、土地の人たちのご説明ご案内にいたく興味をお持ちになり、感動されたと伺っております。

2. 浅間焼け、生死をわけた15段

なだらかな曲線を描いて聳え、静かに噴煙を上げる美しい浅間山は、また日本でもっとも活動的な火山として警戒されています。700年余り前から活動が目立ち、噴火を繰り返して次第に高さを増してゆきましたが、天明3年(1783)旧暦4月8日に噴火をはじめたのち数十回にわたり大爆発をし、7月に入ってから活動は一層激しく、同月1、5、6、7日と続いたのち、8日(新暦8月5日)午前に多量の火砕流が噴き出し、時速100kmの速さで流れ下って北側にあった鎌原村を襲いました。これが“浅間焼け”といわれたものですが、このときの火砕流の温度は1,000度を超えていたと推測され、土、水を呑み込んだ泥流は吾妻川に流れ込み下流の多くの村をその下敷きとしました。災害により亡くなった人は1,100人以上、流失家屋1,600戸以上の被害がありましたが、とくに熱泥流の直撃を受けた鎌原村では村の高台にある観音堂に避難した93人だけが助かり、残りの村民477人は不幸にも泥流の下敷きとなって亡くなりました。観音堂の50段ほどあった石段は15段を残して土石流に埋まってしまう、後日の発掘調

査によればその厚さは5.5mにもおよんでいました。発掘では石段に抱き合うように亡くなった大人と子供の2体の遺骨が現われ、最下段では老女と、それを背負い熱泥流を逃れようとした若い女性の、2体の遺骨も発掘されて人々の涙を誘っています。

噴火の影響は広く日本全土におよびました。火山灰が天空高く舞い上って長期間太陽の光が遮られたため、イネをはじめとする作物が数年にわたり不作となり、「天明の大飢きん」をもたらしています。

明治21年(1888)に市町村制が公布され、翌22年鎌原村を含む11村が合併して嬭恋村となり今日に至っていますが、浅間の噴火のほか、僻遠の地ゆえの交通・物資流通の不便、高冷地のための農作物の凶作など、この地で暮らす人々にとってはそれこそ毎日が困苦の連続だったでしょうが、それを乗り越えて今日の村発展の基礎がつくられたのはまことに感慨深いものがあります。

3. ゆたかに緑波打つキャベツロード

山と溪流に恵まれた村には林産、きのこ栽培、養鱒など特色ある産業が育ち、木工品はおみやげとして、きのこ・ヒメマスは旅館の食膳を豊かなるおいのしめています。しかし高冷



▲鎌原観音堂

の地とはいえ、広い台地のある村では観光と
ならんで農業は主な産業となっています。

水稻作が下流の一部に限られ、コメのとれ
ない村では古来冷涼地でもつくれる作目につ
いて試作されてきたにちがいありません。ヒ
エ・キビ・ソバなど雑穀のほかジャガイモ・
ダイコン・ハクサイなどの野菜をつくり、ま
た薪を切り炭を焼くなどを業としてきました
が、明治末期頃からキャベツ・レタスなどの
洋菜（当時の表現）も導入、試作
されました。キャベツはこの地で
はもっとも適作と考えられ次第に
面積も増えてゆきましたが、昭和
のはじめ頃（1926～'27年頃）よ
り計画的な出荷を目指しての生産
が行われるようになり、年々出荷
量も増えて今日の盛況につなが
っています。

春4月、長い冬が終って雪が融
けると早速畑起こしが始まり、あらかじめ育
てられた苗が順次植付けられますが、浅間山
をバックにして朝日に、また夕日に照らされ
る濃緑のキャベツ畑は実に美しく、村の豊か
さの象徴といえましょう。7月半ば過ぎから
収穫がはじまり、8月が最盛期で出荷は10月
まで続きます。収穫期には全国からきた大型
トラックが、村の各所に設けられた集荷場か
ら段ボール箱を積み込みますが、観光客の来村
とあわせ、村がもっとも活気を呈する時期で
もあります。

キャベツは全村農地の約60%に作付けされ、
年間出荷量は16万トンで全国一の生産出荷量
を誇り、村の農産額のほぼ3/4を占めています。
つまごいのキャベツは野菜が不足する夏
季間のミネラル・ビタミンなどの給源として

の役割が大きいのですが、ただ生産量が多い
だけではなく、その特色は美味しさにありま
す。調理で1枚々々を剥がすとき、ともすれ
ば葉が碎けてしまいそうになりますが、それ
ほど軟かくまた甘さがあって、この時期に村
を訪れる人たちはどの旅館でも高原の味覚を
堪能することでしょう。

キャベツ王国つまごいにも問題がないわけ
ではありません。農作物ですから年による豊



◀キャベツ畑

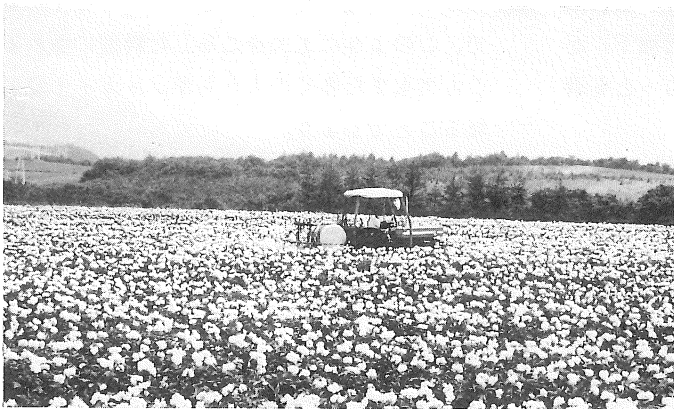
凶があって、とれすぎたときには値段は暴落
し、折角の生産物をみすみす畑で廃棄しなけ
ればならなくなります。村の過半の面積につ
くられるため、ときには連作を余儀なくされ、
そのための障害対策も考えなければなりません。
高冷地をかかえる地方ではキャベツ・スィー
トコーンなどを導入して地域振興をはかりう
とするところも多く、これとの競合もあって
つまごいキャベツの名声を保つには決して苦
労は少なくありません。村には県立園芸試験
場高冷地分場があって、キャベツを主体とし
た高原野菜についての活発な研究が行われて
います。

4. 種ジャガイモ研究の拠点として

キャベツの陰にかくれていますが、ジャガ
イモもまた村の重要な農作物となっています。

田代村（現嬭恋村大字田代）へは天明年間（1781～'89）に越後の屋根職人によって持ち込まれたのがはじまりで、この頃は浅間焼けと、それに続く飢きんが多発した時期で、村の再興に力をつくしていた人たちが、救荒・安定作物であるジャガイモのうわさを聞いて導入したものと考えられますが、天保の頃から生産が年々増加し、天保4年（1833）にはいもすりおろし器を用いてのでん粉製造もは

▶ 種苗管理センター 嬭恋農場のジャガイモ畑



じめられました。

高冷の村では美味しい食用ジャガイモが生産できるばかりでなく、ジャガイモの大敵ウイルス病を媒介するアブラムシの発生が少ないために作られたいもは種子としての価値が高いのですが、この地が種いも生産地として広く認められるのは、昭和10年代に入り県農事試験場が田代に県原種ほを設けて株別検定法を導入してからで、この方法により従来にくらべてはるかに良質な原種が得られています。丁度この頃昭和12年（1937）に日華事変が勃発して太平洋戦争へと拡大してゆき、ジャガイモは食糧としてばかりでなく、アルコールなどの工業原料としてその価値はますます高まり、増産が切望されましたが、そのためには良い種いもを多量に確保して全国に

広く供給することが大切で、当時政府は群馬・長野両県に採種保護地の設置を計画しました。やがて終戦となり、一層食糧としての重要性が高まるジャガイモの、良質な種子生産の基としての機関が昭和22年（1947）農林省嬭恋馬鈴薯原原種農場として本村田代に設けられました。同農場は昭和61年（1986）に農林水産省種苗管理センター嬭恋農場と組織替えになり、本年（平成9年、1977）創立50周年を

迎えます。この間種いも生産の基幹となる原原種を生産し配付する一方、種いも品質に関係する病害虫の検出技術について研究開発が行われ、現在では観察調査のほか血清反応、接種試験、電子顕微鏡を用いての検出など科学的な手段を用い、より良い原原種を生産しています。また、きわめて痩せていた用地の改良、

ジャガイモの増産技術、高冷地での営農体系などについての試験にも取り組み、この面での業績も高い評価を得ています。そして、国内各地からの見学研修者が訪れるばかりでなく、海外からの長期短期の研修員も数多く受入れていて、このような世界的な水準をゆく種いもの生産・研究機関が設けられていることは村にとってたいへん幸せで、いままで同様これからも農場の力添えを得て、高冷地特産のジャガイモが広くその名を知られるよう願ってやみません。

5. ジャガイモも村おこしの一助に

村のキャベツの生産面積が約1,500ヘクタールであるのに対し、ジャガイモはその1/10の作付しかありません。これは、キャベツは高原野菜の王者として堅い需要がありますが、

ジャガイモは生産面でキャベツよりも薬剤散布・収穫選別などに多くの労力を要し、種いもの場合にはさらに特別な管理を必要とすること、消費の面では新鮮なジャガイモの需要がかならずしもキャベツにくらべて高くないこと、などが原因と考えられますが、特産キャベツの生産を今後長く安定させるためには連作ではなく、他作物と組合わせることが必要で、ジャガイモはキャベツと属もちがい、根・地上部の生育型、要求する肥料成分、病害虫の種類、収穫物の着く位置（地上と地下）が異なるなど、パートナーとしてはもっとも適していると思われます。

巷ではジャガイモというと北海道産でなければ、とのイメージが強いのですが、村で生産されたものもこれに劣らず美味であること請合いです。

消費を伸ばすためには地道な努力を積み重ねることが第一ですが、夏には村内各地にキャベツをはじめ、トウモロコシ、ダイコンなど特産野菜の即売所が設けられ、ジャガイモも袋入りで売られています。

陽が西の山にかくれてしばらく、あたりがややうす暗くなりはじめたころ、キャンプ場の炊事場はそれぞれのグループの夕食の準備で賑わいます。ニンジン、タマネギをきざみ、ジャガイモを大きなサイの目に切っているのはカレーでしょうか。傍らでは大きなジャガイモを輪切りにしています。炭火の上に鉄板をのせて焼く肉の添えものにするのでしょうが、肉の汁がしみこみ、表面がこんがりと焼けて野趣味あふれるものです。やや小ぶりのジャガイモばかりを鍋に入れて火にかけている組もありました。ゆで上ってから水を切り、火の上でサッと乾かし、うすい皮をむきなが

ら食べる味は何ともいえないそうです。いろいろなかたちで、ジャガイモはキャンプ料理に欠かせない材料となっていました。

旅館によっては、手作りのコロッケで客をもてなすところもあります。村でとれた男しゃくいもを蒸してつぶし、客が食卓に着いてから植物油でカラッと揚げたあつあつを、皿に盛ってあるキャベツのせん切りのわきに供してゆきますが、名前と形は同じコロッケでも、味はこうも違うものかとびっくりするくらいで、このように工夫をこらした料理に触れることでもまた多くの人たちがジャガイモ党になることでしょう。

（本稿の表題は、嬌恋村の村歌の一節を拝借しました）

編集後記 朝から降り続いた雨が夕方近くになり止んで、低い雲間からやわらかな、だいたい色の光がさしてきました。小さな葉に玉のような水滴をのせて、萩のか細い枝が弱々しく垂れ下がっています。何日前までつつましくやかに、可憐な花をつけていたのに、気がついてみると青い萎れたはなびらが、いたましくも株元に散っています。ひと雨ごとに秋も深まり、間もなく休息のために葉を落す萩、ほかの庭木に時のうつりかわりを感じます。

いも類振興情報 第53号

平成9年10月15日発行

発行所 財団法人 いも類振興会
東京都港区赤坂6-10-41
ヴィップ赤坂303号室
電話 03-3588-1040
FAX 03-3588-1225
振替 00130-1-110152
印刷所 JTB印刷株式会社